

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	このこのアート		
○保護者評価実施期間	2026年 6月 25日 ～ 2026年 7月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	2026年 6月 25日 ～ 2026年 7月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 8月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	弊社の児童への支援理念は、“その人が生きていくことの糧になることを見つけ、その活力、エネルギーが削がれないようにサポートする”。アートによる自己表現力を養い、自己肯定感を高める、質の高い支援をサポートの提供する。	児童のやりたいこと、得意なこと、得意になる可能性のあることを全職員が意識し、できないことを治すのではなく、やりたいことを伸ばすことをサポートする。	児童の障害特性、家庭環境を理解し、児童の得意なことを支援していく。そして18歳以上になった際、できないことを最初に考えることなく、やりたいことを挑戦できるように支援を行う。
2	児童発達支援管理責任者が中心に児童の保護者とのコミュニケーションを取り、家庭支援を含め、児童の支援を行う。	月1回の児童会議を行い、児童の家庭環境を理解し、現在どの児童が優先的な支援が必要かを全職員が把握、実践していく。	児童の家庭環境、障害特性を理解し、どの児童に寄り添い、支援が必要なのかを深く理解し、実践していく。
3	当事業所を卒業していく際に、将来に向けた福祉サービスの情報提供をできるよう、保護者、児童にコミュニケーションを行う。	弊社は生活訓練+移行支援事業所があるため、そこから就労などのサービス内容、情報を整理し提供を行っていく。	地域社会との共存、健常社会とのインクルージョンへの取り組みのため、より情報収集、理解を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者とのコミュニケーションは取れていますが、保護者間でのつながりをどうやって作っていくか、取り組みが課題です。	特に孤立しがちな保護者には、事業所職員との関係、そして、保護者同士のやり取りが必要と考えています。	事業所でのイベントなどに保護者をご参加いただき、保護者同士の接点をつくっていく。
2	児童の社会性への必要性。外部との接触など。	当事業所での支援、サポートだけではなく、地域社会でのインクルージョンを意識した外部との係りを増やしていく。	将来的に必要な福祉サービスを理解し、積極的に情報収集していく。
3			